

洋書輸入協会会報

VOL. 22

NO. 1

(通巻 249 号) 1988 年 1 月

謹んで新春の
お慶びを申し上げます

昭和 63 年 元 旦



理事長 飯泉新吾

景気の好転と世界同時株高という比較的楽観的ムードであった1987年後半は、10月19日の米国株式市場の大暴落によって不安に一転し、世界経済に多大な衝撃を与えたことは、ご存じの通りです。

原因解説が種々取沙汰されておりますが、レーガン大統領は11月20日、主要因である米国の財政と貿易赤字を解消するため、従来の政策を転換し、財政赤字削減策を決定しました。初年度302億ドル、次年度458億ドルの赤字削減を増税と国防費の圧縮を中心に行うというものであります。また11月24日には米ソ核軍縮の第一歩として懸案の INF 全廃が最終合意に達しました。この二つの決定は、米国経済、ひいては世界経済の近未来の軌道を設

定する重要な出来事であります。

米国経済は OECD の見通しによれば、実質成長率は87年度2.75%、88年2.25%、89年1.5%であります。米国の貿易赤字が改善され、ドルが安定することを願うものでありますが、米国は株暴落による景気後退を防止するため、低金利・ドル安に経済政策を転換せざるを得ないのではないかと考えております。

米国の経済政策の変化が、ドル安定の国際合意を形骸化させてきたことは、ニクソン・ショック以降の国際通貨体制の動揺を振り返って見ても明らかです。政策協調の合意がされても、それが長続きせず、米国の経済実態の変化で「合意」が崩壊し、それを収束するためにまた、

新年の挨拶理事長 飯泉新吾 …… 1	関西支部だより	おしらせ…………… 4
年頭所感 (株)国際書房	関西支部長杯ゴルフコンペ…… 3	洋書輸入協会史…… 5
服部貞夫…………… 2	書物にかかわる歌〈その9〉…… 3	海外ニュース…………… 7
	磁気メディア・電子メールの利用… 4	広 告…………… 8

新らたな合意が形成されるといった繰返しでありました。昨年2月のG7のルール合意での「安定相場圏」では米国は、もはややっていけないとしてドル安容認政策をとってきた結果、また新らたな合意の要求が出てきております。

このような背景から見ますと、既に純債務国となった米国の財政赤字削減が88年300億ドル程度であることは、引続きドルには引下げの圧力がつきまとうのではないかと懸念するところであります。

一方、日本の景気上昇は、予想を上回る力強さで進んでおります。東証上場企業の9月期中間決算を見ますと、全産業売上高は前年同期比3.94%増、経常利益11.97%増と、かなりの業種が明るさを回復しており、60年3月期以来の増収増益であります。その原動力は内需の順調な拡大にあることは確実で、貿易不均衡による国際的非難から脱却する内需主導型経済への転換期を迎えているといえるのであります。特筆すべきことは、製造業の営業

利益が3月期14.1%減が53.03%増に急反転したことであります。これは円高による原材料安というメリットであると分析され、産業界も1ドル=130円台はやむを得ないとの気運に傾きつつある現状です。

こういう経済環境・見通しの中でわが洋書業界も枠外ではあり得ず、円高・ドル安の嵐の中で厳しい対応を迫られる年になるものと思われまます。

洋書需要の低迷が続くなかで、昨年予算化されたいわゆる「ドル減らし」需要は、その本質からいって業界の利益につながるとは考えられません。また実質廃案になった売上税も新聞接税として、政府は本年秋成立を目指し検討を開始しております。

難問は山積しています。会員一社一社が業界全体を見据えて、広い視野に立った企業体質になることが、現在ほど必要なときはありません。困難を克服し、業界の発展のためにご健闘されんことを祈念し、年頭のご挨拶といたします。

年頭所感

3・5・1・語

服部貞夫

35年！ 雲か山かと思うほどの歳月ですが洋書で生業をたてて、いつしかそれだけの月日がたちました。幸いにして新年にページが与えられましたので、今回は毎年の勇者たちの激励の辞でなく、まったくの独り言、三五・十五ならぬ35独語とまいます。

35年は長い光陰、それなのに私たちの生きざまはまことに古典的です。セールスは経験と人柄をポケットに客のところにかけます。経験は実際に数々の書籍を手にとって扱っているうちに、また読者、図書館の方々と話し合ううちに自然と自分の中に成長してきます。人柄は長いあいだ客の為よかれと思う心を持ちつづけると、もって生まれたものが次第に醸し出されて来るものです。ここに商品の知識が重なりますと、一種の職人氣質のようなものが生まれて来ます。これだけではもの足りませんのでニュースと本とを運びます。世界の出版情報を自分の目を通して選択分類、客の見やすいような型にして発行し続けるのは、やはり経験と人柄の成果で、これまた職人の気風。その道10年、20年のラインナップを

がっちり組んでいます。35年の成果はまあこの様なものです。

この愛すべき職人さんたちは、私の入社時には扶養家族とも5人、いまは実に70人、これだけの所帯を持ち続けるのは、どうしても豪腕エース一人の力投に頼るわけにはゆきません。全員参加のひとチーム。守備範囲は当然重なり合い、いまの焦点に全員が掛かるといった事が必要になります。この呼吸はまた、すぐれて人間的であると思われまます。ここを仕切ってこう攻めて、上手にゆけば力は2倍、へまをすれば半分。

しかし、随分上手くやったつもりでも、パーヘッド当たりの粗利益を上げ続けてゆくのは本当に難しい。毎年年頭の辞に書かれるように上手くゆかない理由は山ほどある。弗が下がると本の単価が下がるうえに、まけろ、まけろと言われるのが一番つらい。専門の知識も歴史もなしで一山幾らで扱っているのとは訳が違う……と言いたくなくところですが、同じ商品が出て来るのを見ると元気がなくなる。では何故我々も流通やの端しに加わり、

人間が成長する過程をとばして運賃の知識やら、独占手数料ピンハネの研究をしないのか。

正直なところ、それほど意地を張って恰好つけてやって来たわけではなく、半ばなりゆきですから少し説明し難いのですが、“本の街・神田”に長く本に携わって来ますと、どうしても『本は見て買うもの』という意識が強くなって来ます。勿論、専門書は当社ショールームにあります、どのお客様でも直接見るというわけにはゆかない。それで本の実物を見るかわりに、当社のセールスの顔を見、当社のカタログの表紙を見るということになる。それに見合った実力なり、思いこみなりを何時も持つのが、本と客とに対する、なんというか、書店の存在理由だという気持ちが抜けきません。つまりはこれ

が、私の一種の職人気質なのかもしれません。大手書店でも、財テクやらシステム化やらが盛んで、洋書の職人さんたちはあまり表へ出て来られません。皆がジャガイモを買うように専門書を扱いたがっているように思えます。日本じゅうで一冊しか売れない本を売ろうとしているものは、どうすればよいのでしょうか。

誰が言った言葉かは忘れました。名人上手と言われた役者の言葉です。——スターになろうとてなれるものではない。まず必要な役者になろうと心掛けるべきだ。立ち居振る舞い喋り方、美しく、美しくと絶えず心掛ける事、自然と、いなければ困る役者になる。——

では、今年も元気よく。機嫌よく。

(株式会社 国際書房社長・理事)

関西支部だより

関西支部長杯ゴルフコンペ

●第25回 (7月25日 '87 北六甲 C.C. 参加者13名)

out in Gros Hdcp Net

優勝	藤本 勉(紀伊國屋)	54	50	104	22	82
2位	浜岡 螢(南江堂)	43	49	92	18	74 (初参加)
3位	坂本淳一(独亜)	49	51	100	18	82
BG賞	松永(北尾)					
DC #	森(洛陽)、浜岡					
NP #	森、畑(厚生社)					

ひとこと：東京より鶴氏(東亜ブック)の特別参加あり、ひととき賑やか。浜岡氏のダントツ優勝でしたが、初参加のため2位、同ネットの坂本氏も年齢で涙を呑み、強運の藤本氏の優勝、このところ多し。

●第26回 (11月14日 '87 ABCG.C. 参加者8名)

out in Gros Hdcp Net

優勝	畑 正憲(厚生社)	50	43	93	12	81
2位	森 吉彦(洛陽)	48	50	98	16	82
3位	柿谷幸造(ノベルティ)	56	49	105	20	85
DC賞	森、畑					
NP #	松永(北尾)					

ひとこと：先般退会された杉原氏(ユニオン)が久方ぶりの参加、関西支部 G.C. 発足以来、常任世話人として御尽力いただいたので記念品を贈呈。畑氏の優勝は4回目です。ついに最多勝！ (関西支部 hm 記)

書物にかかわる歌〈その9〉

ながやみの癡盲となり手も萎えて舌端にて点字読みゆ
く吾が友 鹿兒島 寿蔵

「点字舌読」と題する連作中の一首。アララギ派の歌人であった著者の第10歌集「帰りきて」に所収されている。昭和28年の作。作者は永年にわたり各地のH氏病の療園の短歌会の指導を重ねていた。

同時の作に〈もろ指の麻痺して火さへただ掴むあやまちすらも日の常といふ〉とあるように、通常の指先で点字を辿ることもならず僅かに残った舌の感覚のみをたよりにする厳しい読書の姿である。ただ数回読んだだけでその点字書は使用不能の状態になるのである。作者は点字歌集「麦を吹く嵐」や「求青」を作って関係図書館に寄贈していた。

〈君らなきのちは日本の癡絶えむ詠み重ねたまへ喜びを苦しみを〉とも詠われているように、特効薬の出現によってこのような悲痛な読書法ももはや見られなくなっているであろうことは誠に幸いである。

〈日本に世界にいまだ聞かざりき点字舌読のきびしきまなび〉

A. A.

磁気メディア・電子メールの利用

1987年のフランクフルト・ブックフェアの会場の一室で、ALPSP/PA主催の「磁気メディアによる雑誌オーダの授受」を議題とした会議が開催され、磁気テープの標準仕様案が承認されました。同時に、電子メールの利用促進についても討論されました。この会議に出席する機会を得ましたので、誌面をお借りして、ご報告致します。

会議名： Meeting of the International Working Party
on Magnetic Media Transfer of Journal
Subscriptions

出席者(社)： Wiley (UK), Taylor & Francis, Pergamon (UK), Royal Society of Chemistry, Faxon (USA), Swetz, EBSCO (USA), Blackwells (UK), USACO

Observer： Elsevier, Springer Verlag, Bordas (Fr.), Read-More (USA), Academic (USA), Wolters-Kluwer

磁気テープの標準仕様

多量の雑誌オーダを処理する出版社・取次店では、4-5年前から磁気テープによるオーダの授受を始めました。効果のある反面、出版社毎に仕様が異なるため、プログラムの開発コストが新しい問題として浮上してきました。1986年3月、ALPSP International Marketing Seminarが開催された折に、この問題の解決の必要性が出版・取次の双方から提起され、ALPSPとPA (Publishers Association)の合同流通委員会にWorking Partyが設けられました。John Wiley, Royal Society of Chemistry及びSwetzが中心となり、磁気テープの標準仕様の原案を書き、続く何回かの会議で検討され、修正されたものが今回の会議で承認されました。新たに磁気テープによるオーダの授受を始めるところは、この標準仕様を使うことが勧告されます。既に磁気テープを利用しているところでは、標準仕様を採用するか否かは、両者の話し合いにより決めることになりました。

電子メールの利用

大量の雑誌オーダは、磁気テープで授受するのが、今のところ最良の方法といえます。しかし、この方法が採用できるのは、シーズン中だけです。

短い(小量データ)が、頻繁に発生する通信には、電子メールが有望な手段です。今回の会議では、既にPergamonとの間で実際に電子メールを利用しているB.H. Blackwellの担当者が現況を説明しました。出版社からの雑誌の価格情報・発送情報、取次からの送付先変更・欠号のクレーム等が、現在両社が電子メールを利用している業務です。

スピード、正確性、効率、電話に比べて安いなど、様々な利点を体験しているとの報告がありました。Working Partyでは、広く意見を集めて、出版、取次の双方にとって使いやすい電子メールの標準をつくる計画です。Blackwellの担当者による標準案は、2-3ヵ月のうちに入手できるはずで、ご希望の方は、筆者までご連絡くだされば、入手次第お送り致します。標準作りに、積極的にご参加いただければと思います。

通信の自由化、国際VANの自由化により、海外との通信も、自由に、比較的安く出来るようになりました。スピードをいのちとする科学技術情報を扱っている私たちは、便利になった通信手段を無視出来ない時代にいます。仮に無視したにしても、想像以上に電子化の進んでいる欧米の出版社・取次店との取引形態・通信方法を、いずれ変えなければならない日がくることでしょう。

会議出席者の個人名をお知りになりたい方は、筆者にご請求ください。

(ユサコ株式会社 システム管理室 飯島 勇)

おしらせ

◎明治大学大学院経営学研究科では、昭和63年度に「社会人入試」を実施します。関心のある方は本協会事務局へお問合せください。

◎次の通り就任通知がありましたのでお知らせします。

インターナショナル ラーニング
システムズ(ジャパン) リミテッド
取締役副会長 吉開栄行
取締役社長 大福 守

洋書輸入協会史 (27)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

28 関西支部の設立

28.1 関西に支部設立の気運高まる

もともと関西には、一色商店やロータッセルなど、戦前から海外出版物輸入同業会のメンバーが活動していたが、戦後も顔触れこそ変わったとはいえ、イギリス、フランス使節団経由英・仏書輸入の頃からこれを手掛ける同業者が存在していた。そして英国使節団のレッドマン氏が大阪に出張した折、緑書房の丹羽氏、梅田書房の山内氏、泉屋書店の尾崎氏を呼び集めたことがきっかけとなって、関西にも同業者の同好会的集まりが時々持たれるなどの素地が形成されつつあった。

昭和25年2月に、大阪の緑書房(代表者、丹羽正之氏)と梅田書房(代表者、山内金三郎氏)が相次いで同業会への加入を承認され、次いで7月には泉屋書店(大丸書籍部、代表者尾崎義夫氏)、旭屋書店(代表者早島喜一氏)の2社の加入が決った。そうこうするうちに次第に海外出版物輸入同業会関西支部を設立し、同業を組織しようという気運が高まってきて、昭和26年に入ると東京との間で打ち合わせが行われ、8月には規約草案も出来上り、9月12日には正式に下記の関西の同業者が集まって会合を開き、設立準備を行った。

記

出席者

同業会会員	泉屋書店(大丸書籍部)	尾崎・榎並氏
	旭屋書店	早島氏
	緑書房	丹羽氏
	梅田書房	山内氏
	パーキンス	楠本氏
未加入社	大雅社	長野氏
	オールスター	川島氏
	本庄商会	本庄氏
出先会員	丸善大阪支店	井上氏

計9社

28.2 関西支部設立のための本部規約変更

昭和26年9月20日、午前10時より丸善新館において同業会理事会が開催され、これに大阪から上京した下記4

社の7氏が出席した。

泉屋書店(大丸書籍部)より	尾崎・見目氏
梅田書房より	今村氏
緑書房より	丹羽・岩崎氏
旭屋書店より	早島・二階堂氏

席上では関西支部設置が提案されると共に、設置の前提となる規約変更及び関西支部規約草案が検討され、早急に臨時総会を開催して本部規約変更の件を審議することとなった。

9月26日、同業会の臨時総会が開催され、20社出席の下で上記の件を審議した結果、次のように決定して、翌27日付海輸第145号により会員に通知された。

記

本会規約変更の件……原案通り承認

即ち「第4条の後に左記1条を追加す。

第5条 本会は地方に支部を置くことが出来る。

第5条以下を1条ずつ繰り下げる。

以上

28.3 関西支部創立総会開催

関西支部から、同業会宛次の報告書が提出された。

記

海輸支第一号 昭和26年9月27日

海外出版物輸入同業会関西支部設立の件

関西支部は貴会9月26日総会の御承認を得て翌9月27日創立総会を開催し、同日附を以て創立完了、新たに発足致しましたから茲に御通知申上ますと共に、今後の御援助御指導をよろしく願上ます。

尚役員は第一次次の通り決定致しました。

理事	支部長	尾崎義夫
理事		山内金三郎
理事		丹羽正之
理事	(京都)	楠本国太郎
理事	(神戸)	川島通弘

以上

海外出版物輸入同業会関西支部
大阪市南区心斎橋1丁目
大丸・外国書籍売場内

添付名簿

会 社 名	住 所	代表者
オールスター合資会社書籍店	神戸市生田区三宮町3-18	川 島 通 弘
株式会社 旭屋書店	大阪市北区梅田3	早 島 喜 一
泉屋書店(大丸書籍部)	大阪市南区心斎橋筋1-118	尾 崎 義 夫
本庄商会	神戸市生田区北長狭通1-10	本庄憲三郎
丸善株式会社 大阪支店	大阪市東区博労町4-47	西 土 春 次
有限会社 緑書房	大阪府吹田市853	丹 羽 正 之
株式会社 パーキンズ商会	京都市中京区河原町三条下ル	楠本国太郎
株式会社 大雅社	大阪市北区梅田町22	長 野 英 次
株式会社 梅田書房	大阪市北区梅田町41 阪急百貨店二階書籍部内	山内金三郎

計9社

ところが、この名簿の中には海外出版物輸入同業会に未加入の会社が含まれ、殊にオールスター合資会社の川島氏は未加入のまま神戸担当の理事に選任もされている。これではどうも具合が悪いのではないかということで、東京の本部から早急に未加入の社には加入申請の手続きを取られたい旨の申し入れがあり、関西支部もこれに応じてその準備を進めた。

28.4 同業会への加入申請増加

昭和26年12月付で、未加入会員の本庄商会とオールスター書籍合資会社の二社の加入申請が提出され、その他に株式会社山長商店、株式会社海外書籍貿易商会、株式会社北尾書店の三社が新たに加入申請をしている。

同業会本部では、昭和27年2月12日に理事会を開いて下記の社の加入申請を承認、2月14日付で次の文書を関西支部へ送った。

記

関西支部 尾崎支部長殿

昭和27年2月14日

入会承認の件

一、神戸市 オールスター書籍合資会社殿

一、全 本庄商会殿

一、全 山長商店殿

一、全 海外書籍貿易商会殿

一、大阪市 北尾書店殿 以上五社

前略 貴殿御推薦にかかる頭記五社本会入会御申込の件、今般理事会において入会を承認されましたから左様御了承の上夫々御申伝下さい。(以下略) 以上

なお昭和27年3月25日付、海輸第7号、「新入会員の御紹介」では、前記2月14日付の関西支部長宛の書信から山長商店が抜けた4社が紹介されており、そしてその4社の入会日は昭和27年1月とされている。

28.5 関西支部発足の日付と、その時点の会員一覧表

昭和27年5月16日の同業会定時総会では、この一年の事業報告の冒頭に関西支部設立の件が取り上げられているが、その中では関西支部設立を昭和27年1月(17日)としている。

察するところ、昭和26年9月27日の関西支部創立総会開催の時には、未加入会員を含んでいただけてなく、その中の一社が理事にまでなっていた関係で、関西支部発足の日とは称し難いとなったのではなからうか。そこで関西支部から未加入会員の加入申請を取りまとめた(申請表は後日別送)という連絡が、昭和27年1月13日付で本部になされ、その旨が1月17日に開催された理事会と懇談会の席上で報告されたことをもって、昭和27年の1月(17日)を関西支部発足としたものであろう。

また昭和26年秋から昭和27年春にかけては、同業会特に理事会は極東貿易の事件の対策に忙殺され、奔命に疲れていたところから、理事会の記録にも部分的に空白があり、関西側も同じ問題の対策で大変だった上に未加入社のことが加わって、双方共にいささか混乱や遅延が生じたのではなからうか。

関西支部発足の昭和27年1月現在の支部会員は、その前後の出入りを整理すると下記の10社となる。

記

社 名	所在地	代表者
旭屋書店	大阪	早 島 喜 一
本庄商会(新会員)	神戸	本庄憲三郎
泉屋書店(大丸書籍部)	大阪	尾 崎 義 夫
海外書籍貿易商会(新会員)	神戸	福 田 悦 夫
北尾書店(新会員)	大阪	北 尾 清
緑書房	大阪	丹 羽 正 之

オールスター書籍店(新会員)	神戸	川島通弘
パーキンス・オリエンタル・ブックス	京都	P.D. Perkins
梅田書房	大阪	山内金三郎
丸善大阪支店	大阪	

海外ニュース

「アメリカの書籍輸出入額」

計 10社

(注)記載順序は、昭和27年4月現在、海外出版物輸入同業会会員名簿による。

28.6 同業会本部と関西支部の間の会費の処理

同業会会費、入会金の処理に関しては、設立が審議されている当初から論議され、本部と支部の間で何度か打ち合わせや文書のやりとりがあっているが、結局昭和27年1月13日付尾崎関西支部長の同業会宛書信によると、

- (1) 会費は一旦全額を本部へ納入し、その上で入会金は3分の1、会費も3分の1を支部が受領する。
- (2) 新入会員ならびに旧会員の支部会費は、昭和27年1月より徴収する。

とあり、これが結論となった模様である。

28.7 役員の交代

昭和27年5月10日付で、関西支部より下記の報告が同業会本部へ提出された。

記

関西支部役員改選の件通知

頭記の件に関し、去る4月関西支部例会において左記の通り改選決定を見ましたので御通知申上ます。

- 一、理事長 山内金三郎 (前理事)
一、理事 尾崎 義夫 (前理事長)

以上

(注)この理事長は、「理事、支部長」と表記すべきものと思われる。昭和26年9月27日付の関西から本部宛の書信にも、尾崎義夫氏は「理事、支部長」と表記されている。

この報告書は、山内金三郎氏より提出され、以後関西支部の事務所は、梅田書房の中に移された。

以上のような経緯で設立され、10社をもって昭和27年1月に発足した関西支部は、その後しばしの停滞の後活発な活動を始め、以後洋書輸入協会の重要な一翼を担って今日に至っている。

(注)関西支部設立の章については、緑書房の丹羽社長の御話も伺いました。

(続く)

米商務省の統計によれば、1986年のアメリカの書籍輸出額は\$604,033,069で、前年より2.2%増加した。これに対し書籍輸入額は\$701,438,619で、前年より実に24.3%もの大幅な伸びを示した。これにより輸出・入の比率は46対54となり、過去数十年来はじめて輸入の方が上回った。ちなみに1982年においてはその比は67対23であった。

対日本の数字を見ると、日本への輸出額は\$34,827,058で0.6%の伸び、日本からの輸入額は\$125,925,445で33.5%の伸びであった。

なお、この統計は輸出では\$500未満のもの、輸入では\$250未満のものを除外しているから、輸出入の実態を必ずしも正確に反映してはいない。

(Publishers Weekly、9月18日号より)

「アメリカの出版統計」

アメリカの1986年の出版統計の最終結果が発表された。これによると1986年の書籍(ハードカバー、ペーパーバック双方をふくむ)の総出版点数は52,637点で、前年より2,567点、約5%増加した。しかし、これまでのピークであった1983年の53,380点には733点及ばない。

1986年の総出版点数のうち約33,000点はハードカバー本であり、約16,000点がいわゆるトレード・ペーパーバック、残りがマスマーケット・ペーパーバックである。

ハードカバー本の平均単価は前年より3%上昇して\$32.43となった。マスマーケット・ペーパーバックは9%上昇して\$3.99に、それ以外のペーパーバックの価格は5.9%上昇して\$14.86となった。

(Publishers Weekly、10月2日号より)

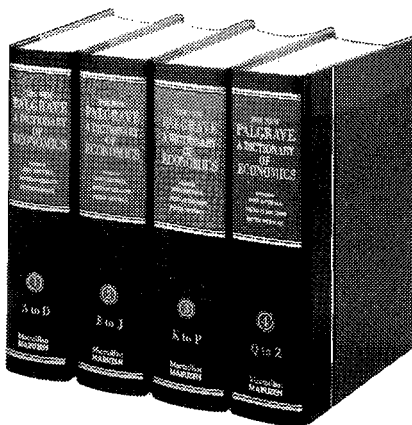
—紀伊國屋書店提供—

丸善創業120周年記念／英国マクミラン社・丸善共同企画出版
世界の最新経済学の学説・理論・諸問題をオリジナルで集大成!!

ザ・ニュー・パルグレイヴ経済学大辞典

THE NEW PALGRAVE A DICTIONARY OF ECONOMICS

Edited by
Murray Milgate, Harvard University
John Eatwell, Trinity College, Cambridge
Peter Newman, Johns Hopkins University



《好評発売中》

(ご注文番号 MBN:8641262)

丸善背革装特製版 定価 ￥165,000

3,500 p. 700 Biographies, 2,000 Entries,
4 Million Words, 900 Contributors,
5,000 Cross-references

■著名な執筆陣…… *印はノーベル経済学賞受賞者

K.J.Arrow*	G.Debreu*	J.Heckman	L.W.Mckenzie	J.R.N.Stone*	S.Ross
R.Aumann	R.Easterlin	A.Hirshman	E.Mandel	P.Sweezy	P.Samuelson*
G.S.Becker	M.Friedman*	L.Kantorovich*	T.Negishi	J.Tinbergen*	H.Scarf
F.Blau	F.H.Hahn	D.Laidler	G.J.Stigler*	J.Tobin*	A.K. Sen
J.Buchanan*	J.C.Harsanyi	W.Leontief*	J.Stiglitz	J.Niehans	H.A.Simon*

本書の概要

英国・日本共同企画。15年の歳月をかけて完成。

企画参加者—世界の著名経済学者100名。

12名のノーベル賞受賞経済学者を含む権威ある執筆陣。

二階堂副包、宇沢弘文、置塩信雄氏等の日本人研究者が執筆者として参加。

歴史、哲学、数学、統計学など、関連領域を含め900名におよぶ執筆陣。

2,000項目の新規書き下ろし論文。

700名の経済学者の経歴と業績(文献解題)を収録。

長期の使用に耐え得る背革装製本。

(Macmillan/Maruzen, JPN)

発売元
M 丸善

本社・日本橋店：〔〒103〕東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)272-7211 振替東京7-5番

支店・営業所—東京(お茶の水・丸の内・内幸町・浜松町・アークヒルズ・錦糸町・北千住・土浦・ららぽーと船橋)・
八王子・所沢・大宮・新潟・松本／札幌・旭川・仙台・弘前・盛岡・郡山・茨城・水戸・横浜・名古屋・岐阜・
三重・金沢・富山・福井・京都・滋賀・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・山口・福岡・長崎・鹿児島・沖縄
／ニューヨーク・ロンドン・シンガポール

1988年1月

通巻第249号

洋書輸入協会

編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル612号室

☎ 271-6901 FAX 271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル

☎ 371-5329